

学校まで毎日どれくらい歩いているの？

単 元	図形の拡大と縮小	対象学年	6 年
ね ら い	縮図における長さや実際の距離を計算することの定着を図る。算数の学習を実生活の場で活かそうとする態度を養うことができる。		

1 準備するもの

教師：学区の地図（黒板貼付用の拡大したもの，児童に配付するためのコピー）

児童：ものさし

2 学習のしかた

(1) 前時の縮図における実際の距離の求め方を復習する。

(2) 問題場面を設定する。

「みんなは学校まで何mくらい歩いてきているのだろうか？」と問いかけ，予想を立てるように指示する。

(3) 学習課題を設定する。

「学校までどれくらいの距離を歩いているのか調べよう」と学習課題を設定する。

(4) 方法の見通しを立てる。

「万歩計を使えばいいのかな？」「グーグルマップで調べる？」

「地図を使えばいいんじゃないかな？」⇒教室でできそうな，地図を使ってみよう！

※地図という考えが出てこなかった場合は，いま勉強していることを生かして求められないか児童に問いかけて，縮図の考えを引き出す。

(5) 個人追究をする。

「この前と違って直線の長さじゃ意味ないな」「自分の家からの道のりは順番に足していけばいいのかな？」「今回の縮尺は？」

※児童同士での相談を認め，一人一人が考えをもてるようにする。

(6) グループをつくり，自分の家から学校までの距離について問題を出し合う。

※グループで問題を出し合うことで，答えが正しいかの確認を行う。

(7) 学区の全員が知っている建物（本実践ではげんき館）と学校までの距離を調べる。

※全員で共通の適用問題を解き，正しく計算ができているかを確認する。

(8) 振り返りを行う。

3 学習上の留意点

- ・児童の意識を大切にするために、自分の家から学校までの距離を求めさせる。一人一人の問題が異なってしまうので、グループでの活動を通して相互に式や解答が確認できる場や適用問題を入れる機会を設ける。
- ・地図を制作する際は、グーグルマップや市販の地図を用いればよいが、画像を印刷する際などに縮尺が正しく印刷されているか確認する。
※本実践では、都市地図をスキャンし、イラストレーターのソフトを使って、5000分の1に縮尺を変えた。

4 学習の効果

- ・前時で縮図の計算に苦手意識をもっていた児童も意欲的に追究していくなかで、計算方法を身に付けることができた。
- ・グループや全体での計算の仕方や答えを確認することで、一人一人の定着を図ることができた。
- ・振り返りでは、「地図って便利なんだ」「実際に歩かなくても距離が分かるのはすごい」「今度旅行に行くときに調べてみたい」など、算数を日常生活でも活用しようとする態度が養われた。
- ・テストでは、縮図の利用に関する問題の正答率が9割を超えるなど、学習の定着が伺えた。

5 参考資料

- ・わくわく算数6（平成31年度用）啓林館
- ・都市地図 愛知県3 岡崎市・幸田町
（2019年6版） 昭文社



資料① げんき館から根石小学校までの距離の求め方 模範解答